

山口県総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成27年9月17日(木) 15:10～16:00
- 2 場 所 山口県庁4階 共用第1会議室
- 3 開 会 (事務局)
- 4 知事挨拶

本日は、第2回の山口県総合教育会議ということで、教育委員の皆様方には大変お忙しい中お集まりいただき、厚く御礼を申し上げます。御案内のとおり、この総合教育会議は教育委員会制度改革の一環として全ての地方公共団体に設置をするということになっており、知事と教育委員会が協議・調整をすることで、両者が教育政策の方向性を共有し、一致して執行に当たっていこうと、そういう趣旨で5月に設置をさせていただいた。併せて、前回の会議では、教育分野の目標や施策の根本となる方針として策定することとされた「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」について、策定方針を議題とし、委員の皆様からは幅広い見地から様々な御意見を頂戴した。本日の会議においては、御意見を踏まえて整理をした大綱の案と、大綱の下で平成28年度に重点的に講ずべき施策について取りまとめた重点取組方針の案について協議をさせていただきたいと思っている。こうした貴重な話し合いの場を活用することで、教育委員の皆様方と問題意識を共有し、そして施策に積極的に取り組んでいきたいと考えているので、どうか忌憚のない御意見、御提案をいただくようお願いし、私からの冒頭の御挨拶とさせていただきます。

- 5 議事概要 (議事進行: 知事) ※委員発言: ● 事務局説明等: ○

(1) 山口県の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱(案)について

○事務局から大綱案について、資料1に沿って説明

● (浅原教育長)

この大綱について教育委員会関係についてまとめてお話をさせていただく。今回示された大綱(案)については、5月の第1回の会議で示された5つの柱に沿って内容を肉づけされたものとなっている。内容的には1ページの2番目の○に記載されているとおり、本年3月に策定された県の総合計画であるチャレンジプラン、それから教育委員会の山口県教育振興基本計画、そういったものに記載している事項を再整理、再構築をされたということで、この大綱はプランや教育振興基本計画と整合性のとれたものになっていると考えている。それからこれについては本県の教育施策の根本的な方針と、文字どおり大綱ということであるので、私どもとしてはあまり詳細な内容まで、あるいは詳細な事項まで記載するものではなく、施策レベルを記載した、こういった内容のものが適切ではないかなと考えている。したがってこの大綱案のとおり進めていただきたいと考えている。

● (村岡知事)

この案のとおりに進めていただきたいという話をいただいた。この大綱については、第1回の会議での決定事項を踏まえ、チャレンジプランに記載した内容、それから教育委員会で策定をされている山口県教育振興基本計画、これと整合を図りながら再構成をして策定をす

るということで、取り組んできたものである。今お示ししている案をもって、我々知事部局と県教委が認識を共有するということにさせていただきたい。

(2) 平成28年度における重点取組方針（案）について

●（村岡知事）

平成28年度重点取組方針案について、まず私の方から基本的な方向について話をさせていただく。重点取組方針、資料の2ということでお示しをしている。1番の基本方向ということで御覧をいただきたいというふうに思う。今、地方創生ということで、国全体で旗が振られている。山口県もこの人口の減少を何とか食い止めなければいけない、これが県政の大変大きな最重要課題と思っている。そういった克服に向け、教育分野においても大きな課題であると認識しなければいけないというふうに思っているところで、そういう中で、地方創生を成し遂げていくためには、将来にわたって、本県を支える人材の育成が欠かせないものであるというふうに思っている。地方創生をテーマに今各地域でどこでもトークということで、いろいろ御意見をお聞きしているが、皆さん教育分野についての関心を非常に高くお持ちである。将来を担う人材をしっかりと育てる、郷土への愛着とか、まだまだ山口県の教育をしっかりと充実をしてほしいという声も多くいただくわけであるが、地方創生という中でも、教育の役割、大変重要であるというふうに思っている。このため、県と県教委が共通意識をもって一丸となって地方創生の実現について教育分野から取り組んでいくということが大変重要ではないかというふうに考えている。そうした観点から平成28年度の重点取組事項の案としては、地域や本県産業を担う人材の育成、あるいは県内定住や還流を促進する取組について特に重点的に進めていくと、そういった基本方向を示していくということである。その具体的な取組事項については事務局の方から説明をお願いする。

○事務局から重点取組方針（案）の具体的な取組事項について、資料2に沿って説明

●（山縣委員）

大変いい重点取組事項であると思う。一昨年山口県教育振興基本計画ができたわけであるが、そのとき防長教育の伝統をこれからも受け継いでいこうということのを切に願って、そういう大綱になった。昨日もお忙しい中知事に来ていただいたが、大阪、山口地酒維新ということで、まさに幕末の先人の郷土の人の素晴らしい偉大な事業を我々は誇りとして持ち続けて、それがまさに知事もおっしゃったように、7年連続全国で唯一山口県が地酒が伸び続けている。それは教育委員会でもよく言うが、まさに山口県の防長教育の伝統によってできたということをよく言っている。そういう教育がまずあって、そういう人材が生まれて、本当に40数年前私が帰ってきたときには私どもの業界は最もダメな県だったかもしれない。ただそれが、知事もおっしゃるような全国で唯一伸び続けて、なおかつたぶん業界の中では一番注目を浴びている県になった。その山口地酒維新という名前も若い人たちが付けたわけであり、山口県から日本を変えるんだというふうな心意気、それは150年経った今でも息づいているなど私も感じていた。若い人を非常に登用したという幕末の長州藩の動きもある。それがやはり私どもの業界でも若い人が非常に頑張っああいうふうな状況を作っているわけで、あらゆる業界においてそういう活性化が図られるということが必要だし、そのためにはやはり教育がまず大事だということである。本当に知事さんにはいろんなところに台

湾とか来ていただき、先頭に立ってそういう商品、山口県産品のPRをしていただいているが、やはり山口県が元気になるためにはそういう地域、そういう物産がやはり活性化して、どんどん全国やあるいは世界へ売れていくっていうのは大事なことで、それがあれば、確かに中央の東京一極集中という中で、実はもう既に我々の業界では県外へ出て行った人が再度山口県に帰って来て酒屋をやろうとかそういう動きも出ており、やはり地場産業が活性化することが人口減を食い止めるとかそういうことに非常に大事で、これからも是非そのためには本当に知事さんもお忙しい中これからも大いに頑張ってください、先頭に立ってやっていただく、本当にありがたく思っている。この取組事項、故郷やまぐちを愛する心を育て、定住意識の醸成につながるよう、小中高の各段階に応じた郷土の理解や誇り等を育む教育の推進、まさにそのことであり、これがどんどんこれからもやっていけば、必ず山口県の人口が減るのではなく、どうして山口県だけが増えるんだというふうなことにもなると思うので、是非基本方針を着実に実行していただきたいと思っている。

●（岡野委員）

今出されている総合的施策の大綱、これが私たちにはとても素晴らしいものだと思っている。こういったものはあまり細かいものを入れるのではなく大まかな視点だけがきちんと入っていればそれでいいかと思うので、これであとは中身の肉づけをしっかりと知事さんと教育委員会と一緒に考えていけばいいと思うので、是非これは中身を今からしっかりと一緒に検討させていただけたらと思う。

私は普通の主婦の立場なので、企業のこととか分からないが、山口県は、幕末維新の時に寺子屋の数が全国で2位というほどたくさんの寺子屋があったという、教育がとても盛んな県だというふうに向った。やはり教育熱心な県民性というか、防長教育の伝統を今の私たちもずっと受け継いでいるのではないかと思うので、やはり今から地方創生、いろんな事を考える時に教育っていうのは柱の大きなものとしてみんなでしっかり取り組んでいくべきものではないかと思っている。その中で一番この前も言ったが、コミュニティ・スクール、地域協育ネットの充実っていうことが今一番身近なところですぐ手を付けられるところではないか。コミュニティ・スクールも全国に先駆けて、100%になろうとしている。しかし、これは地域性があり、中身がまだ出来上がっていない。ただ数字の上では100%かもしれないが、これからその中身をしっかりと充実させて素敵なものに、地域の方と学校とそれからいろんな方と一緒に、地域の方からは知恵袋と言えるたくさんの方がおられるので、そういったものをいただきながら子供たちを見守る体制を、地域そして学校の特色を活かした、山口県全部同じ形になることはないと思うので、特色を活かしたそういったものがきちんと築きあげられるような、そしてそれがきちんとできるとともに中学校校区を中心とした地域協育ネット、これらを連携しながらみんなで子供たちを見守り育てていくことがとても大切なことではないかと思う。それが今回の28年度の目標にも入っていたので、とても嬉しく思った。

それから、私は萩出身で、今回世界遺産に明治日本の産業革命遺産、これに認定されとても喜んでいる。これを見た時にまず、どうして萩市の松本村の小さな一部屋からあれだけの人材が全国に羽ばたいていったのか、それを考えた時やはり先ほど言った、学問が大好きな、防長教育が大好きな人たちが萩にはたくさんいた。でも萩だけではない。日本の産業をこれ

だけ今の時代までもってきたのは、山口県人の素晴らしさがあったと思うので、やはり山口県に生まれた者として、それだけの素晴らしい偉人たちが萩から、山口県からそれだけの人たちがたくさん送り出されている。ということは、やはり私たちもだが、子供たちにしっかり教えて、誇りをもって、子供たちも山口県って素晴らしいんだなっていうことを自信をもってよそに行っても言えるように、またそういったことで道德教育につなげることもできると思うので、是非そういった偉人、それから地域の郷土芸能とかそういったものを大切にしながら子供たちに教えてあげたいと思う。そういったことで心豊かな子供たちに育つこともできると思うし、子供がそういうふうにならば、大人も一緒に心豊かになれると思うので、お互いの相乗効果で素敵な山口県人がそこで生まれるんじゃないかなと思う。是非その辺は一緒に知恵を出し合いながらやっていけばいいと思う。それにも関わるとすれば、やはり文化芸術。いろいろあるが、山口県はまだ本物に接する機会、音楽にしても芸術にしても、そういう施設とかたくさんあるが、もっともっと本物に接する機会を子供たちに与えてもらいたい。授業の中で取り組んでもいいのではと思う。やはり本物を見ることによって育ち方、感性の成長っていうのはまた変わると思うので、是非その辺は少し検討していただき、文化施設の充実とか、社会教育施設の充実、またそれをもっと活用する方法を少し考えていただくともっと楽しいのではと思っている。

それと今回鬼怒川の方で水害が起こった。ああいうのを見た時にやはり防災教育も是非頭に入れておいて、一昨年萩の方でもあったし、防府でも何年前にあった。そういったことを契機にするのではなく、よそで起きた時点でも、今からやっぱりこれはとても大切なことだと思うので、防災教育っていうのもこの中にまた取り組んでいただきたいという思いがある。授業の中で云々じゃなくてもいいので、是非お願いしたい。

それともう1つ、「健やかな体と心の育成」というのがこの中にあるが、教育委員会の方で今「食事、運動、遊び、読書90日元気手帳」を作っている。それをもっと活用して子供たちの生活習慣が定着するように、せっかく作ってあるならそれをもっともっと活用していただきたい。それと地域創生の点で教育とは離れていないと思うが、今子供たちを産んでそして育てて、出生率を増やそうとかいう話が地域創生の方で出ているが、そうする前にやはり結婚・出産・子育てずっと全体を通した支援というか、環境、生活環境、子供たちを見守る生活環境、これをやはりどこかの時点できちんと整える体制を作らないと、子供を産んでもなかなか、病院行こうと思っても病院がなくて受け入れてもらえないとか、山口市内などは大丈夫だが、私たちのいる萩の方では子供が病気になってそして小児科を探そうと思ったら小児科がないとか、産婦人科がないとか、そういう実態が地域にはたくさんあるので、是非その辺のきちんと充実した環境ができれば、若い人たちもあそこに行ったら子供産んで立派な教育をしてもらえというような地域づくりを是非考えていただけたらと思っている。

●（中田委員）

今説明を受けた重点取組方針（案）の（2）の「若者の県内定着・還流の促進」の中の2番目のところの「高大連携による共同研究や相互交流」、そして、3番目の「本県企業の特徴や魅力を学生に直接伝える機会の拡大」、この辺りに関連したことを話したいと思う。今アベノミクスがどれくらい行き渡っているかということをよく言われるが、企業の大きさでは大きいほど効果が現れている。そして地域と都会で言えば、大都会の方が効果が上がって

いる。働き方で言えば、正規の社員の方が非正規の社員より効果が上がっている。つまりこの3つ揃えば、効果が上がる範囲に入ると。だけどそこから条件が一つ二つと少なくなるほど効果が少ないというようなことが言われている。これはマクロ的な考え方だと確かにそうだと思う。所得とかいうようなことで考えれば、間違っていないと思うが、こういう特定の条件が整わないと勝ち組の方におれないというような社会はやはりあまり良くないと思う。ということで安倍氏も地方にもっと活力を出すようにして地方からいろんな提案とか創造性が発揮できるような世の中にしたいということであると思うが、いかんせんまだ、十分な予算が地方に下りてきてないのかなという気がする。でも地方を良くしていくという方向はこれから是非必要になると思う。私は大学にいますので、大学の立場で考えると、大学も昔は特に国立大学も駅弁大学と言われていた時代が長く、この意味はどこの大学も、例えば経済学部とか教育学部とか、それぞれ学部ごとに教育内容がそう特に変わったことがないと、どこ行っても金太郎飴みたいな感じで同じような授業が提供されるというような言い方がされていたと思う。だが、独立行政法人、10年くらい経つが、組織が変更され、学長が非常に大きな権限を持つ組織になりつつある。そういう中で、大学も特色のある大学づくりということで、大学全体としてもそうだが、学部としても、例えばこの辺りだと山口大学の経済学部と広島大学の経済学部、あるいは九州大学の経済学部、あるいは香川大学の経済学部、それぞれ特徴のある学部でないといけないと、これからは生き残っていけないと言われているので、大学としてもそして学部としてもそれぞれ今そういうものを必死に構築している。経済で言えば、もう10年くらい前になるが、会計士、税理士を現役で通すというコースを作り、この分だけは今受験生を見ても全国的に受験してくる。はっきりした目的を持ってくる。こういうものを、もっと経済学部としてもそしてあるいは他の学部としても作っていかないといけないということで作り、そして大事なのは情報発信、この情報発信という面がやはり今までまだ遅れていたと思うので、今一生懸命やろうと思っている。それと大学も、地方の企業だけでなく、地方全体に貢献できるような大学でないとこれからは生き残っていけないということで、大学全体としてもその方向があるし、経済学部としても、例えば行政とか地域の企業に貢献できるような経済学部にならないといけないということで、そういう試みを少しずつ進めている。特定の地域、行政、市町村とタッグを組んでその仕事を一緒にしたり、そういうことも始めている。そういうふうに情報発信という意味では今まで今年も8月にやったが、オープンキャンパス、昔はこの日がオープンキャンパスだと言って、全部の学部が一律に何月何日にどうぞおいでくださいというようなことだけやっていたが、今は10人20人の単位で、いつ行きたいという連絡をいただければこちらが時間を調整し、この時間に来ていただいたら、経済学部の中を紹介する、説明会も開かせてもらうという個別の対応もやるようにしている。出前講義も、全学でこういう先生のこの授業受けてみたいというものがあれば、それを指定してもらえば、その学校行って授業をやるということも昔からやっている。特徴的な大学づくりという面をこれからはもっとしっかりやっていきたいということを思っている。

もう一つは、これまでの経済学部の授業というのはこういう授業だったと思う。いろんな次元で分けることができると思うが、例えば、大企業と中小企業という分け方をすると、やっぱり先生方の研究というのは、最先端の研究をしたいということが強いので、どうしても

大企業の研究をするということになる。それともう一つは、それと関連性はあるが、国内だけで仕事をしている会社とグローバルに仕事をしている会社というやっぱりグローバルという方を選ぶ。そのため先生の研究の対象というのがどうしても大企業で海外で活躍しているような企業を研究し、それがやっぱり授業内容、教育内容に出てしまう。そうするとそれを受けてる学生はそれがどうしても頭に耳に残るので、そういうところでやっぱり働くのが面白いんだなというイメージを多分強く持っているのではないかと思う。でもそればかりやっていると、やっぱり国内の中小企業は疲弊してしまうので、やはり私たちの研究領域も、地域貢献という意味では、どっちかというところ中小の企業、国内で活躍している企業、あるいはまだそういう卵の状態でしかない小さい企業、それを何とか大きな会社、一流の会社にしていく、こういうところを私たちも少し研究の重点を移し、そういうところの面白さ、そして夢を学生に教育そして講義できれば、学生もやっぱりそういうところで働くことが地方の発展にもなるし、自分自身の人生の中でも、大手の中のほんとは一つのギアとして働くよりは、いろんなことを自分の意思決定でたくさんことができ、いろんな仕事を経験できるという面白さもあるわけで、そういう教育・研究のところ、私たちの授業内容を少し変えていく必要があるのかなと少しずつ思い始めている。そういうところで大学と小中高というような連携ができていけばいいのではないかと。今までは、どうしても受験があるので主に大学に来ていただくのは高校生が多かったと思う。だけど例えば工学部とか理学部なんかの実験室とか、そういうところに小学生・中学生が来られても、ああ面白いな、不思議だなというような面もたくさんあるので、そういうところを見ていただくということもいいのではないかと思っている。

● (宮部委員)

「地域や本県産業を担う人材の育成」、それと「若者の県内定着・還流の促進」ということで、少しお話をさせていただく。今中田委員が言われたが、大学に対するいろいろな地域の方への理解を深める活動と言うか、これもコミュニティ・スクールとか、それぞれの段階を通じて生じる、地元の産業はこんなものだよと、こんなことしているということを若い時から、小さい時から伝える何か方法があればいいかなと、そういうことで郷土を愛する気持ちが芽生えてきて、それを含めて両親の面倒見るとか、それが一番最適ではないかという流れになるのではないかと思っている。地場産業についてもそれぞれ特徴をもってやっている各産業がある。私事で申し訳ないが、私、建設業で、県のいろいろな御指導により、大型工事も地場でほとんどできるという形になっている。それと最近災害が多いが、一番最初に動き出すのは地場建設業ということで、それから自衛隊とか、消防とか、県警が動くという形になるが、県民の安全安心のために、そこに是非とも地場にそういった人材が必要である。そういうことを含めて人間が必要だが、1回目も言ったが、なかなか定着しない。高校はもちろん、山口大学もそうだが、なかなか希望はあってもミスマッチがあり、上手くないかということがある。この辺も小さい時からそれぞれ郷土を愛するという気持ちで、親と子供が精神的に変わっていくしかないのかな、という思いがある。そういったことで(1)②にある郷土に対する理解、誇り、そういったことを、③も含めてそのような重点でやっていただきたいと思う。それとちょっと見方変えて、大手企業、今までも山口県内、瀬戸内海側下関とか岩国にたくさんあり、地元の工業高校を出た子供たちが親御さんも入られて、今

その子供、孫までが入る時代になっている。その定着率が一番人口減少を止めているという流れがある。私の仲間、息子たちの仲間を含め、やっぱり地場で転勤のない、工場雇いになるが、地場で働いてじいちゃん、ばあちゃん、父さん、母さんと一緒のコミュニティができて、子供たち、孫も育っているという非常にいい環境になっている。それこそ世界をめざしたり、日本のトップをめざしたりという人材も必要だが、そういった地元に残る人材、こういうこともひとつ意識していただき、特に産業もだんだん内容が変わる。新しい産業ができたり、同じ会社であっても作る物が変わったりということで、工業高校の専門の方も変わっていると思うが、その辺も上手くマッチしていただき、その会社が必要なニーズがあるものを高校で関連付けてできるようなことがあればその辺がつながっていくのではと思う。一番は高校出た子供たちを出さないという形。それも大手企業であれば、所得の問題もあまりないと思う。地場企業はこれも自分たちが頑張らないといけないのだが、しっかり経済的に余裕をもって、若者を経済的にこれくらいあれば生活できるというところまで持っていくのが我々の事業者の責任になるが、そういったことも含めて若者が来るということになれば、その視点も変わり、企業のやり方も変わると思うので、是非、重点全ての半分くらい入っていると思うが、キャリア教育について取り組んでいただきたいと思う。それと一番は成長戦略にあるが、企業誘致していただいて地場の子供たちはもちろん、取り合いになるかと思うが、よその県から来てもらう。先日テレビで、松江がIT産業に特化して、学校も企業も含めて都会から松江にずいぶん人が集まっているという話を聞いたが、そういったことも含めてよろしく願いたい。

●（石本委員）

私は山口県の活性化には子供たちの力が一番大切だと思っている。それを伸ばすためにはやはりここで言われる職場体験とか、コミュニティ・スクール、インターンシップ、そういうものの職業の幅を少し広げて、自分が山口でこんな仕事につきたい、こういうことをしたいっていうのを将来的なビジョンをある程度想像して、進路を考えて、どうやったらなれるのか、そのためにはどの学校に行かなきゃいけないか、どういう勉強をしなきゃいけないかというところを作っていくような教育をしていただけたらと思う。教育、教育と言うが、その教育で大事なのはやはり先生方だと思うので、先生方の職場環境も整えることにもう少し力を入れていくところもあるのかなと思う。やはり今は暴力、不登校、モンスターペアレンツと言われるような問題などもいろいろあって、志願者がなかなかこう増えない傾向にあるのかなと思う。教員が昔ほどこう魅力的じゃない仕事になってきてないかというのをちょっと心配しているが、やっぱりそういうところの対策、しっかり考えて教育をするという仕事の魅力を大学生、高校生それぞれ感じていただき、私もこんな先生になりたいっていう希望をもって教員志望の方が増えれば、競争率も上がって、いい先生が増えて、またいい子供たちが育つといういい循環になるのかなと思う。

それともう一点、障害のあるお子さんの教育、就職などもやはり大変なところがあり、なかなか就職先が決まらない、やっと就職が決まった施設、この前下関でも虐待の事件が、残念なニュースがあった。ここじゃないと働けないので我慢してた親御さんとかもおられたとも少しお話を聞いたこともあるが、やはりそういう一般企業にも就職できる、障害施設だけではなくて、幅広く障害のある方でもできることはいろいろあると思うので、その子の特性

を活かして、得意なところを活かして、またそういう企業への障害者への支援なども考えた上で、皆が楽しく山口県で働けるんだよといういいイメージをもって、企業を誘致して頂いたり、そういう就職の支援をしていただければ山口県いいイメージができるかと思うので、たくさんの方がまた来ていただけるかなと思っている。

●（浅原教育長）

時間の関係で一つだけお話を。2ページ目の（2）の若者の県内定着に関するお話。これは先ほどから話があるように、山口県の人口減少が大変厳しい状況の中で県政の最重要課題の一つというふうに考えている。今日午前中の県民会議でも県立大学の理事長さんがいろいろおっしゃっていたが、地域貢献と言う観点から、県立大学では学生の県内就職についてもすごく力を入れておられ、現在大体50%弱の者が県内に就職しているというふうなお話を今日午前中に聞いた。県立高校でも、県内の大学とかあるいは県内の企業、その良さを知らなかったために、あるいは、いいところがあるということが分からなかったために、高校生が県外に出ていくということがないように、是非様々な手段を講じて情報提供等に努め、1人でも多くの生徒が県内に残るというふうに努めていきたいと考えている。特に、高校の就職に関しては、工業高校が就職する割合が大変高い。地元の産業を担う人材の育成という観点からは是非工業教育の充実というのを力入れていきたいと考えている。そうした中で少し具体的な話になるが、現在の工業高校の実験とか、実習施設、設備等を見てみると、古い時代の物が多くてかなり老朽化をしている。もちろんその機械は大変高価なもので、一回に揃えるというわけにいかないが、各学校の実態等踏まえ、そうした面の環境整備にも取り組んで、専門教育の一層の充実を図っていきたいと考えている。また県教委でも頑張るが、県の方でも御理解と御支援いただけたらというふうに思っている。

●（村岡知事）

各委員の皆様から大変貴重な御意見をいただいた。教育行政の様々な現状や今後取り組んでいく課題などについて幅広く御意見いただいた。感謝申し上げます。この28年度の取組方針の方向性としては、この方向で進めるということについて後押しをいただくような御意見も多くいただいた。大変心強く思っている。今いただいた御意見をしっかりと踏まえながら、これから具体的な肉付けの部分をやっていく必要があると思っている。それでは28年度の重点取組方針については、この示した案のとおり決定するというようにさせてもらってよいか。

○（全員了承）

●（村岡知事）

最後に一言述べさせていただく。今日はお忙しいところお集まりいただき大綱と来年度の重点取組方針について貴重な御意見いただき、感謝を申し上げます。この度、大綱を取りまとめ、そしてまた重点取組方針についても決定することができて、ありがたく思っている。これから、来年度に向け、また当初予算の編成という作業に入ってくるわけであるが、私としては、大綱とそれから重点取組方針に沿って、関連する施策がしっかりと推進できるように取り組んでいきたいというふうに思っている。また教育委員会におかれても、同じ課題意識の下、是非とも引き続き積極的な取組に努めていただくよう、よろしくお願ひしたいという

ふうと思う。次回は、平成28年度の当初予算案を踏まえ、来年度における具体的な重点施策等について協議をさせていただきたいと思っており、2月頃にまたこうした形で会議の場を設けたいというふうにいる。引き続き、御協力をお願い申し上げ、まとめの挨拶とさせていただきます。

6 閉会（事務局）